



矢作川流域圏における課題（案）

1. 課題の設定にあたって

課題については、あくまで懇談会で議論する課題のイメージを持ってもらうため、事務局で用意した、たたき台であり、これまでの会議等で検討されてきた内容を集約したものです。

今後、懇談会をすすめる中では、参加者のみなさんから改めて課題を頂き、どのような課題を議論していくか一緒に考えていきたいと思ひます。

課題の設定にあたって参考とした会議等

- ・ 矢作川の環境を考える懇談会（平成 13 年 4 月～平成 14 年 5 月）
- ・ 矢作川流域委員会（平成 15 年 6 月～平成 21 年 1 月）
- ・ 三河湾流域圏再生行動計画（平成 20 年 3 月策定）
- ・ 矢作川住民懇談会（平成 20 年 7 月～10 月）
- ・ 矢作川行政連絡会（平成 20 年 7 月～10 月）
- ・ 矢作川住民説明会（平成 20 年 10 月）
- ・ 矢作川水系河川整備計画（平成 21 年 7 月 30 日策定）

2. 課題の分類方法

設定した課題は、分野別・地域別で分類するとともに、今後懇談会で扱う課題や優先度の観点から以下のように分類しました。

分類項目	分類内容	分類の考え方
分野別（6）	治水に関する課題 利水に関する課題 環境に関する課題 地域活性化に関する課題 総合土砂管理に関する課題 維持管理に関する課題	矢作川水系河川整備計画で分類されている5分野（治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理）に地域活性化を追加し、それぞれの分野に関連する課題を設定した。
地域別（3）	山部会で検討する課題 川部会で検討する課題 海部会で対応する課題	各部会の検討範囲に関連する課題を設定した。 山部会で検討する課題 矢作川の水源地域に関する課題 海部会で検討する課題 矢作川河口部及び矢作川流域に接する海域に関する課題 川部会で検討する課題 上記以外の矢作川流域圏に関する課題
懇談会で扱う課題（2） 次ページに詳述	懇談会で扱う課題 その他の課題	懇談会で意見交換すべき課題を設定した。 懇談会で扱う課題（協働・連携で取り組む課題） 民・学・官の連携により意見交換すべき課題 その他の課題 行政機関のみで対応できる課題や行政機関と特定の団体で検討できる課題
優先度	短期的に取り組む課題	優先的に検討すべき課題（当面3ヵ年で取り組む課題）を設定した。 設定にあたっては、流域全体（山・川・海部会）に関連する課題とこれまでに要望の多かった課題（意見が3つ以上を対象）を対象とした。

矢作川流域圏における課題（案） 分野別

各部会で扱う課題（案）

分野	課題		問題点 (キーワード)	部会			短期 課題
	大分類	小分類		山	川	海	
治水	直轄管理区間の治水安全度向上	流下能力の確保	・越水の危険（36～40k）				
		河道内樹木の伐開	・樹林化による洪水流下阻害				
		堤防の強化	・堤防整備率が低い ・堤防への浸透 ・堤防の耐震性 ・護岸の根入れ不足				
		矢作古川への分派量低減	・洪水時の計画を上回る矢作古川への分派（東海（恵南）豪雨時）				
		矢作ダム機能向上	・洪水調整容量の不足				
	県・市町村管理中小河川の治水安全度向上	流下能力の確保	・支川の堤防高不足 ・支川の河積不足				
	内水処理	下水道整備率の向上	・下水道処理人口普及率が低い（全国より-10%）				
		田・畑・ため池の保全	・田、畑等の宅地化の進行				
	危機管理	地域防災力の向上	・水防団の高齢化等による担い手不足 ・災害に対応するための仕組みづくり				
	流出抑制のための森林の保水機能の維持	適正な森林管理	・森林の荒廃				
利水	利水安全度の低下、渇水対応	利水安全度の向上	・水利用の増加 ・取水制限の頻発				
	減水区間の動植物の生息環境や水質改善	減水区間の解消	・減水区間発生による河川環境の悪化				
	河川水の適正な利用	水利用の情報提供	・取水実態の把握 ・矢作古川での水利権確保				
	流域の保水機能維持	田・畑・ため池の保全	・田、畑等の宅地化の進行				
環境	矢作川らしい河川整備の推進	干潟、ヨシ原、砂州の保全・再生	・土砂供給の減少 ・干潟、ヨシ原の減少（0～2.5k） ・砂州の減少（18.5～20.5k）				
		河道内樹木の対策	・土砂供給の減少 ・樹林化の進行				
	動植物の生息・生育環境の保全・再生	藻場・浅場の再生	・海草藻場（アマモ）の減少				
		川の連続性の確保	・河川横断構造物による魚類等の移動阻害 （鹿乗川取水堰、小島堰（矢作古川）、乙川頭首工、藤井床固工、明治用水頭首工） ・減水区間の存在				

分野	課題		問題点 (キーワード)	部会			短期 課題
	大分類	小分類		山	川	海	
環境		川の攪乱と更新システムの再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川の自然営力(ダイナミズム)の減少 ・ 澁筋の固定化 ・ 河床の粗流化 ・ 河川の流砂量の減少による大型糸状緑藻(カワシオグサ)の異常繁茂 				
		適正な森林管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工林の荒廃による生物の生息環境等の劣化 				
		矢作川を特徴づける種の生育環境の保全・再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 干潟の減少(イカルチドリ) ・ 砂州の減少(コアジサシ) ・ 砂礫底の減少(キイロヤマトンボ) 				
		外来種対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラックバス、ブルーギルの生息(ダム湖、上中流) ・ カワヒバリガイの生息(中流) ・ セイタカアワダチソウの繁茂 ・ オオカナダモの繁茂 				
	水辺へのふれあいの増進	自然に配慮した河川空間利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用と自然環境のバランス調整 				
		人と川とのふれあい増進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親水空間の不足(中流) ・ 安全性の向上、バリアフリーの促進が求められる 				
		子どもたちの身近な自然とのふれあい機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川との触れ合いの場が不十分 ・ 環境教育の場としての活用が不十分 				
		利用マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水上バイクやラジコンのトラブル(明治用水頭首工) ・ 海への関心の薄れ ・ 砂浜への車両乗り入れ ・ 遊泳者やマリナー関係者の無謀な行為 				
		水辺へのアクセス向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防及び水辺へのアクセスの改善 				
	良好な景観の維持、形成	矢作川らしい景観の維持・創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂州の減少 ・ 干潟・ヨシ原の減少 				
		景観阻害要因の除去	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミや汚物の不法投棄 ・ 家電製品の不法投棄 ・ 船舶の不法係留、車両の不法放置 ・ 河道内樹木による眺望阻害 ・ 流木の河川等への流出 				
	良好な水質の維持	三河湾における水質保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉鎖性の強い水域 ・ 生活排水や産業排水による流入負荷 ・ 赤潮の発生 ・ アオサの発生 ・ 苦潮の発生 				
		流入河川、支川の水質浄化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支川(矢作古川、鹿乗川、乙川等)の水質が悪い ・ 河川への水量減少(下水道整備など) 				

分野	課題		問題点 (キーワード)	部会			短期 課題
	大分類	小分類		山	川	海	
環境		流域対策の推進(排出負荷の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併浄化槽の整備が不十分(上流) ・ 汚水処理施設の整備率が低い(全国より - 13%) ・ 大腸菌群数が環境基準を未達成 ・ 下水道処理人口普及率が低い(全国より - 10%) 				
		ダム湖内対策(冷濁水対策、土砂流出対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上流域の森林荒廃(山腹崩壊等による流出土砂が多い) ・ 冷濁水放流の長期化 ・ 富栄養化の恐れ 				
地域活性化	地域間交流の推進	上下流交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上流への意識の低さ ・ 流域住民の参加を促す取組みが不足 				
	まちづくりとの連携	まちづくりと一体となった河川環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりと川づくりのつながり不足 				
		水辺のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連続性のある遊歩道の整備が不十分 				
		河川管理用通路の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通過交通によりクラック発生 ・ 狭くて危険 ・ 渋滞時では、緊急の交通確保が困難 				
	地域固有の歴史・文化を活かした川づくり	歴史的資産、景観の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮世絵に描かれるような歴史的景観の維持・保全する取組みの不足 				
		川にまつわる伝統行事の維持・継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竜宮大社の祭事の継続が懸念(淵の保全) 				
	産業の振興	林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業経営不振、林業従事者の減少 ・ 森林の荒廃 ・ 流域連携による仕組みづくり ・ 助成制度や公的支援の見直し 				
農業の振興		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中州におけるカラスの生息(中流) 					
漁業の振興		<ul style="list-style-type: none"> ・ アカガイの激減 ・ ナマコ類の減少 ・ 貝類、エビ・カニ類の減少 ・ アユのそ上阻害 					
総合土砂管理	土砂・流木被害の軽減	適正な治山対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流出土砂の発生 				
		適正な森林管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的知識の不足 ・ 森林の荒廃 ・ 流木の発生 				
	矢作ダム堆砂対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 堆砂の進行 ・ 矢作ダムへの流入土砂の増加 				
	河道安定化対策	適正な土砂管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂による樹林化、河床低下等の河道への影響 				
	産卵床や干潟・浅場、漁場の減少等生息環境への影響	海域環境や漁場環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂による漁業被害への影響 ・ 河口干潟の減少 				

分野	課題		問題点 (キーワード)	部会			短期 課題
	大分類	小分類		山	川	海	
維持 管理	河道管理	樹木の適正管理	・ 樹林化の進行				
	河川管理施設管理	河川管理施設の適正管理	・ 河川管理施設の劣化				
		堤防道路の適正管理	・ 渋滞時では、緊急の交通確保が困難				
	矢作ダム管理	適正なダム管理	・ ダムへの流木の流入 ・ 河川への流木の流出 ・ 濁水の長期化				
	許可工作物の管理	許可工作物の適正管理	・ 現行の技術基準を満足していない工作物が存在している				
	危機管理対策	情報ネットワークの構築	・ 水質、水難事故等への対応方法				
		地球温暖化の影響把握と対策	・ 海面上昇による海拔ゼロメートル地帯への影響				
	不法投棄への対応	不法投棄対策	・ 不法投棄の増加 ・ 不法係留 ・ 海岸への流入ゴミ				
	流域圏に係る意識向上	流域内の連携強化	・ 河川管理者の連携不足 ・ 縦割り行政 ・ 上下流交流の不足				
		情報共有・啓発活動の推進	・ 情報共有基盤の不足				

矢作川流域圏における課題（案） 山部会

分野	課題		問題点 (キーワード)	短期 課題
	大分類	小分類		
治水	危機管理	地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 水防団の高齢化等による担い手不足 災害に対応するための仕組みづくり 	
	流出抑制のための森林の保水機能の維持	適正な森林管理	<ul style="list-style-type: none"> 森林の荒廃 	
環境	動植物の生息・生育環境の保全・再生	川の攪乱と更新システムの再生	<ul style="list-style-type: none"> 河川の自然営力（ダイナミズム）の減少 濤筋の固定化 河床の粗流化 河川の流砂量の減少による大型糸状緑藻（カワシオグサ）の異常繁茂 	
		適正な森林管理	<ul style="list-style-type: none"> 人工林の荒廃による生物の生息環境等の劣化 	
		外来種対策	<ul style="list-style-type: none"> ブラックバス、ブルーギルの生息(ダム湖、上中流) カワヒバリガイの生息（中流） セイタカアワダチソウの繁茂 オオカナダモの繁茂 	
	良好な景観の維持、形成	景観阻害要因の除去	<ul style="list-style-type: none"> ゴミや汚物の不法投棄 家電製品の不法投棄 船舶の不法係留、車両の不法放置 河道内樹木による眺望阻害 流木の河川等への流出 	
	良好な水質の維持	流域対策の推進（排出負荷の削減）	<ul style="list-style-type: none"> 合併浄化槽の整備が不十分（上流） 污水处理施設の整備率が低い（全国より - 13%） 大腸菌群数が環境基準を未達成 下水道処理人口普及率が低い（全国より - 10%） 	
ダム湖内対策（冷濁水対策、土砂流出対策）		<ul style="list-style-type: none"> 上流域の森林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い） 冷濁水放流の長期化 富栄養化の恐れ 		
地域活性化	地域間交流の推進	上下流交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 上流への意識の低さ 流域住民の参加を促す取組みが不足 	
	産業の振興	林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 林業経営不振、林業従事者の減少 森林の荒廃 流域連携による仕組みづくり 助成制度や公的支援の見直し 	
		農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 中州におけるカラスの生息（中流） 	
総合土砂管理	土砂・流木被害の軽減	適正な治山対策	<ul style="list-style-type: none"> 流出土砂の発生 	
		適正な森林管理	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識の不足 森林の荒廃 流木の発生 	
	矢作ダム堆砂対策		<ul style="list-style-type: none"> 堆砂の進行 矢作ダムへの流入土砂の増加 	

分野	課題		問題点 (キーワード)	短期 課題
	大分類	小分類		
総合土砂管理	河道安定化対策	適正な土砂管理	<ul style="list-style-type: none"> 土砂による樹林化、河床低下等の河道への影響 	
	産卵床や干潟・浅場、漁場の減少等生息環境への影響	海域環境や漁場環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 土砂による漁業被害への影響 河口干潟の減少 	
維持管理	矢作ダム管理	適正なダム管理	<ul style="list-style-type: none"> ダムへの流木の流入 河川への流木の流出 濁水の長期化 	
	不法投棄への対応	不法投棄対策	<ul style="list-style-type: none"> 不法投棄の増加 不法係留 海岸への流入ゴミ 	
	流域圏に係る意識向上	流域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 河川管理者の連携不足 縦割り行政 上下流交流の不足 	
		情報共有・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有基盤の不足 	

矢作川流域圏における課題（案） 川部会

分野	課題		問題点 (キーワード)	短期 課題
	大分類	小分類		
治水	直轄管理区間の治水安全 度向上	流下能力の確保	・越水の危険（36～40k）	
		河道内樹木の伐開	・樹林化による洪水流下阻害	
		堤防の強化	・堤防整備率が低い ・堤防への浸透 ・堤防の耐震性 ・護岸の根入れ不足	
		矢作古川への分派量低 減	・洪水時の計画を上回る矢作古川への分 派（東海（恵南）豪雨時）	
		矢作ダム機能向上	・洪水調整容量の不足	
	県・市町村管理中小河川の 治水安全度向上	流下能力の確保	・支川の堤防高不足 ・支川の河積不足	
	内水処理	下水道整備率の向上	・下水道処理人口普及率が低い（全国よ り-10%）	
	田・畑・ため池の保全	・田、畑等の宅地化の進行		
	危機管理	地域防災力の向上	・水防団の高齢化等による担い手不足 ・災害に対応するための仕組みづくり	
利水	利水安全度の低下、湯水対 応	利水安全度の向上	・水利用の増加 ・取水制限の頻発	
	減水区間の動植物の生息 環境や水質改善	減水区間の解消	・減水区間発生による河川環境の悪化	
	河川水の適正な利用	水利用の情報提供	・取水実態の把握 ・矢作古川での水利権確保	
	流域の保水機能維持	田・畑・ため池の保全	・田、畑等の宅地化の進行	
環境	矢作川らしい河川整備の 推進	干潟、ヨシ原、砂州の保 全・再生	・土砂供給の減少 ・干潟、ヨシ原の減少（0～2.5k） ・砂州の減少（18.5～20.5k）	
		河道内樹木の対策	・土砂供給の減少 ・樹林化の進行	
	動植物の生息・生育環境の 保全・再生	川の連続性の確保	・河川横断構造物による魚類等の移動阻害 （鹿乗川取水堰、小島堰（矢作古川）、乙 川頭首工、藤井床固工、明治用水頭首工） ・減水区間の存在	
		川の攪乱と更新システ ムの再生	・河川の自然営力(ダイナミズム)の減少 ・滯筋の固定化 ・河床の粗流化 ・河川の流砂量の減少による大型糸状緑 藻（カワシオグサ）の異常繁茂	
		矢作川を特徴づける種 の生育環境の保全・再生	・干潟の減少（イカルチドリ） ・砂州の減少（コアジサシ） ・砂礫底の減少（キイロヤマトンボ）	
		外来種対策	・ブラックバス、ブルーギルの生息（ダ ム湖、上中流） ・カワヒバリガイの生息（中流） ・セイタカアワダチソウの繁茂 ・オオカナダモの繁茂	

分野	課題		問題点 (キーワード)	短期 課題
	大分類	小分類		
環境	水辺へのふれあいの増進	自然に配慮した河川空間利用の促進	・ 利用と自然環境のバランス調整	
		人と川とのふれあい増進	・ 親水空間の不足(中流) ・ 安全性の向上、バリアフリーの促進が求められる	
		子どもたちの身近な自然とのふれあい機会の創出	・ 川との触れ合いの場が不十分 ・ 環境教育の場としての活用が不十分	
		利用マナーの向上	・ 水上バイクやラジコンのトラブル(明治用水頭首工) ・ 海への関心の薄れ ・ 砂浜への車両乗り入れ ・ 遊泳者やマリナー関係者の無謀な行為	
		水辺へのアクセス向上	・ 堤防及び水辺へのアクセスの改善	
	良好な景観の維持、形成	矢作川らしい景観の維持・創出	・ 砂州の減少 ・ 干潟・ヨシ原の減少	
		景観阻害要因の除去	・ ゴミや汚物の不法投棄 ・ 家電製品の不法投棄 ・ 船舶の不法係留、車両の不法放置 ・ 河道内樹木による眺望阻害 ・ 流木の河川等への流出	
	良好な水質の維持	流入河川、支川の水質浄化対策	・ 支川(矢作古川、鹿乗川、乙川等)の水質が悪い	
		流域対策の推進(排出負荷の削減)	・ 合併浄化槽の整備が不十分(上流) ・ 污水处理施設の整備率が低い(全国より-13%) ・ 大腸菌群数が環境基準を未達成 ・ 下水道処理人口普及率が低い(全国より-10%)	
	地域活性化	まちづくりとの連携	まちづくりと一体となった河川環境整備	・ まちづくりと川づくりのつながり不足
水辺のネットワークの形成			・ 連続性のある遊歩道の整備が不十分	
河川管理用通路の活用			・ 通過交通によりクラック発生 ・ 狭くて危険 ・ 渋滞時では、緊急の交通確保が困難	
地域固有の歴史・文化を活かした川づくり		歴史的資産、景観の保全・活用	・ 浮世絵に描かれるような歴史的景観の維持・保全する取組みの不足	
		川にまつわる伝統行事の維持・継承	・ 竜宮大社の祭事の継続(淵の保全)	
産業の振興		農業の振興	・ 中州におけるカラスの生息(中流)	
		漁業の振興	・ アカガイの激減 ・ ナマコ類の減少 ・ 貝類、エビ・カニ類の減少 ・ アユのそ上阻害	

分野	課題		問題点 (キーワード)	短期 課題
	大分類	小分類		
総合土砂管理	矢作ダム堆砂対策		<ul style="list-style-type: none"> ・堆砂の進行 ・矢作ダムへの流入土砂の増加 	
維持管理	河道管理	樹木の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林化の進行 	
	河川管理施設管理	河川管理施設の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・河川管理施設の劣化 	
		堤防道路の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞時では、緊急の交通確保が困難 	
	矢作ダム管理	適正なダム管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムへの流木の流入 ・河川への流木の流出 ・濁水の長期化 	
	許可工作物の管理	許可工作物の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の技術基準を満足していない工作物が存在している 	
	危機管理対策	情報ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・水質、水難事故等への対応方法 	
		地球温暖化の影響把握と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・海面上昇による海拔ゼロメートル地帯への影響 	
	不法投棄への対応	不法投棄対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の増加 ・不法係留 ・海岸への流入ゴミ 	
流域圏に係る意識向上	流域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足 		
	情報共有・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有基盤の不足 		

矢作川流域圏における課題（案） 海部会

分野	課題		問題点 (キーワード)	短期 課題
	大分類	小分類		
環境	矢作川らしい河川整備の推進	干潟、ヨシ原、砂州の保全・再生	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂供給の減少 ・干潟、ヨシ原の減少(0~2.5k) ・砂州の減少(18.5~20.5k) 	
	動植物の生息・生育環境の保全・再生	藻場・浅場の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・海草藻場(アマモ)の減少 	
	水辺へのふれあいの増進	利用マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・水上バイクやラジコンのトラブル(明治用水頭首工) ・海への関心の薄れ ・砂浜への車両乗り入れ ・遊泳者やマリナー関係者の無謀な行為 	
		水辺へのアクセス向上	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防及び水辺へのアクセスの改善 	
	良好な景観の維持、形成	景観阻害要因の除去	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミや汚物の不法投棄 ・家電製品の不法投棄 ・船舶の不法係留、車両の不法放置 ・河道内樹木による眺望阻害 ・流木の河川等への流出 	
	良好な水質の維持	三河湾における水質保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖性の強い水域 ・生活排水や産業排水による流入負荷 ・赤潮の発生 ・アオサの発生 ・苦潮の発生 	
地域活性化	産業の振興	漁業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・アカガイの激減 ・ナマコ類の減少 ・貝類、エビ・カニ類の減少 ・アユのそ上阻害 	
総合土砂管理	矢作ダム堆砂対策		<ul style="list-style-type: none"> ・堆砂の進行 ・矢作ダムへの流入土砂の増加 	
	産卵床や干潟・浅場、漁場の減少等生息環境への影響	海域環境や漁場環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂による漁業被害への影響 ・河口干潟の減少 	
維持管理	矢作ダム管理	適正なダム管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムへの流木の流入 ・濁水の長期化 	
	危機管理対策	地球温暖化の影響把握と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・海面上昇による海抜ゼロメートル地帯への影響 	
	不法投棄への対応	不法投棄対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の増加 ・不法係留 ・海岸への流入ゴミ 	
	流域圏に係る意識向上	流域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足 	
情報共有・啓発活動の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有基盤の不足 		

矢作川流域圏における課題（案）根拠

分類	大分類	課題	小分類	問題点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 課題	委員会等の意見	根拠		
治水	直轄管理区間の治水安全度向上	内水処理	流下能力の確保	・越水の危険(36~40k)				<p>細の首狭管部の改修。</p> <p>豊田市内の淵の首狭管部をはじめ、各所で東海(豊南)豪雨に対する河道の流下能力が不足しており、堤防整備や河道掘削等が必要</p> <p>平成12年9月の東海豪雨では、矢作川の淵の首狭管部上流の豊田市では越水や漏水が発生し、多大な被害が発生</p> <p>東海豪雨の際、上流部の豊田市街地の一部区間で越水が発生した。</p> <p>東海豪雨では九澄橋付近であと1m程で溢れる状態だった。</p> <p>安城川豊田付近での樹木は、堤防下側の少し残して、(堤防強化の為)残りは全て除いて欲しい。</p> <p>美矢井橋~新幹線(16k~18k区間)までの樹木の伐採を早期要望。</p> <p>乙川台流点付近下流では、河岸の樹林化が洪水流下の支障となっており、河道掘削に加えて樹木伐開も必要</p> <p>砂州の規模拡大や植生による河槽阻害が見られる</p> <p>河川敷の小段及び中洲に立木の伐採をお願いしたい。</p> <p>15k~16k区間の右岸に漏水がある。</p> <p>名鉄三河線矢作川橋梁付近等において未施行箇所があり、堤防の脆弱箇所がある。</p> <p>中堤防の舗装を突端まで行っていただきたい。</p> <p>浸透に対する安全性を確保するために対策が必要な区間の延長は、点検実施済区間の約7割</p> <p>堤防前面の不足している区間が多く残されている</p> <p>護岸の根入れ等が不足する区間が顕在化</p> <p>砂河川であるため、水衝部は、洗掘されやすい</p> <p>東海地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されたことを受け、耐震点検を行うとともに、必要に応じて対策を行う必要がある。</p> <p>大規模地震災害の危険性が高いことから、河川管理施設の耐震点検・耐震化が課題となっている。</p> <p>堤防整備率は、完成約35%と中部管内でもかなり低い整備水準にある</p> <p>矢作古川沿川の浸水被害軽減には、分派量低減の対策等が必要である。</p> <p>平成12年(2000)9月洪水(東海(豊南)豪雨)時には、計画を上回る流量が矢作川から矢作古川へ分派</p> <p>既設矢作ダムは、工事実施基本計画以前の計画に基づき計画規模1/80で整備されており、既定計画の1/150に対応していない。</p> <p>矢作ダムの放流施設規模は、河川整備基本方針で定めている計画規模の放流には対応していない</p> <p>東海豪雨の際、本川の背水や支川の堤防高不足・河槽不足等により、浸水被害が発生した。</p> <p>下水道処理人口普及率は59.0%であり、東京湾や大阪湾の約90%に比べ大幅に低い、全国平均の69.3%も下回っている</p> <p>三河湾流域圏の市町村のうち、豊橋市、岡崎市及び刈谷市は合流式下水道を採用しているが、近年、雨天時未処理放流水による放流先での水質の悪化、水利用者に対する景観・公衆衛生及び生態系への影響が懸念されている。</p> <p>現在の田・畑・ため池を利用した治水事業が早くして有効的であると思います。田・畑、等へ補助金を出して残す工夫が即効性がある。</p>	<p>第2回行政連絡会(西三河総合庁舎)</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>三河湾流域圏再生行動計画</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第2回住民懇談会(豊田)</p> <p>第2回住民懇談会(岡崎)</p> <p>第2回住民懇談会(岡崎)</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第2回住民懇談会(岡崎)</p> <p>第2回行政連絡会(西三河総合庁舎)</p> <p>第2回行政連絡会(西三河総合庁舎)</p> <p>第2回住民懇談会(西尾)</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p>	
			河道内樹木の伐開	・樹林化による洪水流下阻害						
			堤防の強化	・堤防整備率が低い ・堤防への浸透 ・堤防の耐震性 ・護岸の根入れ不足						
			矢作古川への分派量低減	・洪水調整容量の不足						
			矢作ダムへの分派量低減	・洪水時の計画を上回る矢作古川への分派(東海(豊南)豪雨時)						
			矢作ダムの機能向上	・洪水調整容量の不足						
			流下能力の確保	・支川の堤防高不足 ・支川の河槽不足						
			下水道整備率の向上	・下水道処理人口普及率が低い(全国より-10%)						
			田・畑・ため池の保全	・田・畑等の毛地化の進行						

分類	大分類	課題	小分類	回廊点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 課題	委員会等の取組	根拠
治水	危機管理	流域防炎力の向上	地域防炎力の向上	・水防団の高齢化等による担い手不足 ・災害に対応するための仕組みづくり			水防団員の減少・高齢化により防炎力が低下している 水防活動機会が減少し、水防手法の伝承が不十分である 復旧・復興までを視野に入れ、災害を克服できる仕組みや対応を講じていくことが重要である。	第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画
				・森林の荒廃			水防団員の減少や高齢化、洪水発生回数減少により、水防工法の伝承が難しくなってきたこと、水防団の強化・育成が必要 上流域は森林荒廃が激しく、森林保全（治山、治水、育林等）に苦慮している。 森林の荒廃による洪水時の土砂流出、流木の増加等による河川への悪影響が懸念される。 針葉樹は、広葉樹に比べて土壌の保持力が弱く、適切な管理を怠ると土壌が流出しやすい。 東海豪雨時に流木が大量に流出し、洪水流下の支障となった 矢作川流域の地質は花崗岩で構成されており、土砂災害に弱く、水士保全機能が求められている。このような状況から森林整備が重要で、森林整備のあり方（森林の保全、広葉樹林化、林業のあり方等）が必要。	第2回行政政建協会（西三河総合庁舎） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4
利水	利水安全度の低下、湯水対応	利水安全度の向上	・水利用の増加 ・取水制限の頻発				利水安全度は近辺他水系の計画に比べて著しく見劣る。 昭和47年（1972）～平成18年（2006）の35年間の1/10 湯水流量は約2.4m ³ /sであり正常流量を大きく下回っている。 矢作川水系では、年間約6億2,600万m ³ の水を農業用水（約66%）、工業用水（約24%）、水道用水（約20%）として利用されており、こうした高い水需要に対して、毎年約1億m ³ の湯水による取水制限を受けており、生活や産業活動への影響を受けやすい 中部の他水系と比べても河川水の利用率が高い 至近32年間で20回の取水制限が発生している。 近年の少雨化傾向や昭和40年代以降の水利用の増加により、河川流量が減少している。	第10回流域委員会 第10回流域委員会 矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画
			・減水区間発生による河川環境の悪化 ・取水実態の把握 ・矢作古川での水利権確保			水路式の劣悪では取水地点から放水地点までの間で減水区間が生じ、河川環境が悪化する場合も生じる。 古川への分派量は、分派地点河川流量が古川の既得水利流量の8.6トン以下の時は全量古川に流しそれを上回ったら本川と古川で案分する。既得水利権優先を主張します。 矢作ダム利水計画において想定していた既得水利権需要量に対して、その後の実績取水量が大きく上回ったことが、矢作ダムの利水容量が不足している原因の一つであり、湯水が頻発する一因となっている。 湯水は水利権設定値は雨を考慮しない等もあり、水利権量に比べて実績取水量が少ない。上工水は将来の水需要の見通しを考慮して水利権を設定しているため、水利権量に比べて実績取水量は少ない。 常に古川の水利権8m ³ /sを維持できるような施設にしてみたい。 言われたものは全て分派の上流であり、分派の下流では本川に水利権がないので、吉良頭首工で水を止めないで、古川へもっと流して欲しい。	第8回矢作川流域委員会 資料-4 第2回住民懇談会（西尾） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第2回住民懇談会（西尾） 第2回住民懇談会（西尾） 矢作川水系河川整備計画	
	流域の保水機能維持	田・畑・ため池の保全	田・畑等の宅地化の進行				矢作川総合事業の受益地内では、ため池がまだ残されているものの都市化の進展に伴い減少してきている。	

分類	大分類	小分類	課題	問題点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 課題	委員会等の意見	根拠		
環境	矢作川らしい河川整備の推進	干潟、ヨシ原、砂洲の保全・再生	河道内樹木の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂供給の減少 ・干潟、ヨシ原の減少 (0~2.5k) ・砂洲の減少 (18.5~20.5k) 			下流へ土砂供給がなされないことから、河道においては陸域化や河床低下の回復が望めない。また、河口域においては干潟の減少なども懸念されている。	第8回矢作川流域委員会 資料-4		
		河道内樹木の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・土砂供給の減少 ・樹林化の進行 			干潟は1990年(平成2年)時点で1,549haであり、1978年(昭和53年)に比べ、10%(175ha)程度も減少した	三河湾流域圏再生行動計画		
環境	動植物の生息・生育環境の保全・再生	藻場・浅場の再生	川の連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・海草藻場(アマモ)の減少 			三河湾では埋め立て等により干潟・浅場が失われつつあるほか、藻場が減少している	第2回住民懇談会(西尾)		
				<ul style="list-style-type: none"> ・河川横断構造物による魚類等の移動阻害 (鹿葉川取水堰、小島堰(矢作古川)、乙川頭首工、藤井床固工、明治用水頭首工) ・減水区間の存在 			三河湾の海草藻場(アマモ)は、1965年(昭和30年)頃には6,800haあったが、1970年(昭和45年)頃には410haまで減少し、15年間で約94%の海草藻場が失われた	矢作川水系河川整備計画		
							吉良頭首工(11k付近)に魚道を設置して欲しい。			第2回住民懇談会(西尾)
							生態系の遡上、降下に支障ある工作物の政策を実施して頂きたい。(吉良頭首工)			第2回住民懇談会(西尾)
							藤井床固工及び古川分派施設の改修工事への配慮 水路内を回遊するのに障りがない構造の工夫。例：増水時の避難場、鳥類等の捕食を低減できる環境の異質性の確保、遊泳力の乏しい魚類(カジカ、アユカケ)にも配慮			第2回住民懇談会(岡崎)
							家下川合流点(27k)付近、川との連続性、ワンド等の再生により、水辺の豊かな生物群集の再生			第2回住民懇談会(豊田)
							上流域にもアユがそよできるようにしてほしい。			第2回住民懇談会(豊田)
							堰やダムは河川を横断する工作物であり、魚類等の生物の移動にとっては障害となっている。			第8回矢作川流域委員会 資料-4
							支川の合流点に樋門、補管が設置されることにより段差が生じると、魚類等の生物にとって本川と支川の移動の障害になっている。			第8回矢作川流域委員会 資料-4
							流域には発電等のダムや堰などが数多く設置されていることで、連続性の分断や状況の変化による生物の生息環境に変化をもたらしている。			第8回矢作川流域委員会 資料-4
							水踏式の発電では取水地点から放水地点までの間で減水区間が生じ、河川環境が悪化する場面も生じる			矢作川水系河川整備計画

分類	大分類	小分類	課題	問題点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 計画	委員会等の意見	根拠
環境	動植物の生息・生育環境の保全・再生	川の荒乱と更新システムの再生	水生	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の自然営力(ダイナミズム)の減少 ・河川の粗流化 ・河川の流砂量の減少による大型系状緑藻(カワシオグサ)の異常繁茂 	山		藤井床固工及び古川分流通施設の改修工事への配慮 矢作古川の流量のダイナミズムが少なからず変化するのであれば、そこに生息している生物に対する配慮が必要。例：稀少なタナゴ類が生息しているのでその環境に配慮を。	第2回住民懇談会(岡崎)
				<ul style="list-style-type: none"> ・人工林の荒廃による生物の生息環境等の劣化 			林業従業者は減少し、人工林の荒廃が進み、生物の生息環境等に大きな影響を与えている。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
				<ul style="list-style-type: none"> ・干瀬の減少(イカルチドリ) ・砂洲の減少(コアジサシ) ・砂礫底の減少(キイロヤマトンボ) 			自然にできた緩流の入江(ワンド)があるので、この入江の形成された水理条件を請さないように上流側の河原を掘削する方法を考えて欲しい。(40k付近)	第2回住民懇談会(豊田)
				<ul style="list-style-type: none"> ・ブラックバス、ブルーギルの生息(ダム湖、上中流) ・カワヒバリガイの生息(中流) ・セイタカアワダチソウの繁茂 ・オオカナダモの繁茂 			この付近で唯一の広い礫の河原なので、貴重な河原の植物が生えていないが、事前によく調べ、そのような植物を保全しながら(中程度の撈乱を維持しつつ)掘削する方法を開発して欲しい。(40k付近)	第2回住民懇談会(豊田)
				外来種対策			矢作ダムによる止水域がブラックバス、カワヒバリガイ等の外来生物の定着、供給に寄与している可能性が少なからずあるので、駆除に関する積極的な対応。	第2回住民懇談会(豊田)
				<ul style="list-style-type: none"> ・利用と自然環境のバランス調整 			直轄区間の上流や中流部でブラックバスやブルーギルといった外来種が確認されている。植物ではセイタカアワダチソウが繁茂している。貝類としては中流部でカワヒバリガイが確認されている。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
				<ul style="list-style-type: none"> ・水辺へのふれあいの増進 			外来種として、カワヒバリガイ、オオクチバス、ブルーギル等の魚介類、セイタカアワダチソウやシナダレスメメガヤ等の植物が確認されており、河川環境の変化が懸念される	矢作川水系河川整備計画
				<ul style="list-style-type: none"> ・親水空間の不足(中流) ・安全性の向上、バリアフリーの促進が求められる 			ダムに起因する問題として、カワシオグサやオオカナダモなどの付着藻類やカワヒバリガイ等の異常繁殖があり、これを管理するには土木的に対応することが必要だと考えている	第12回矢作川流域委員会
				<ul style="list-style-type: none"> ・人と川とのふれあいの増進 			公園として河川敷が利用されているのは21施設存在。人と川とのふれあいと自然環境との共生が課題。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
				<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷に公園、グラウンド、ゴルフ場等が整備されたため、植生域が減少。 			高水敷に公園、グラウンド、ゴルフ場等が整備されたため、植生域が減少。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
			矢作緑地高遠前(仮称)親水空間公園化(5k付近)を計って欲しい。	第2回住民懇談会(西尾)				
			西尾市水津町右岸、里橋より下流も親水地域を設けられないか。	第2回住民懇談会(西尾)				
			河川利用者の安全性の向上、水辺へのアプローチ、バリアフリー化を含めた施設の利便性の改善等が求められる	矢作川水系河川整備計画				

分類	大分類	課題	小分類	問題点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期課題	委員会の意見	概観			
環境	水辺へのふれあいの増進	子どもたちの身近な自然とのふれあいの創出	子どもたちの身近な自然とのふれあいの創出	・川との触れ合いの場が不十分 ・環境教育の場としての活用が不十分	山川海		子供達が水とふれあう広場の整備。	第2回住民懇談会（西尾）			
				利用マナーの向上	・水上バイクやラジコンのトラブル（明治水頭首工） ・海への関心の薄れ ・砂浜への車両乗り入れ ・遊泳者やマリンスノー関係者の無謀な行為			川づくり、まちづくりは、人を集める人づくりから始まる。多くの人に川について考えてもらうためには、情報ネットを用いた情報発信、環境教育・総合学習が必要。 日常の散策以外にもスポーツや水遊び年間270万人もの利用者がいるが、水難事故や利用者間によるトラブルも発生している。 明治頭首工の湛水域でカヌー大会を開催したが、水上バイクやラジコンなどの問題や苦情があった。 近年、水上オートバイやプレジャーボート等の利用が増え、水面利用が多様化したことに伴い、迷惑（騒音、危険）行為が増加し、苦情・事故等が発生している 海への関心の薄れ（海の保全に対する意識）等により、海岸利用者のマナーの悪さが顕在化している 砂浜への車両の乗り入れがみられ、他の利用者との事故の発生が危惧される	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第10回流域委員会 矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画		
				水辺へのアクセス向上	・堤防及び水辺へのアクセスの改善			水辺に行けるような道が欲しい（怖くて行けない）（18k付近） 堤防及び水辺へのアクセスが難しい箇所もある。 人が海岸へ近づきやすくし、人と海とのふれあいの場を確保するため、既存の砂浜の保全・再生や海岸へのアクセス向上を図るとともに、港湾区域においては、物流・産業機能に支障のない範囲で海に親しめる場を創出していく必要がある。	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 第2回住民懇談会（岡崎） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 三河湾流域圏再生行動計画		
				良好な景観の維持・創出	・砂川の減少 ・干潟・ヨシ原の減少			矢作川の特徴である砂洲や河口の干潟・ヨシ原が減少する等、かつての自然や景観が消失しつつある 名鉄鉄橋の下流残骸の撤去（23k付近） 名鉄電車の下り残骸の撤去。 河畔の竹林が密生しているため、豊田スタジアムのレストランから低水路の水面が見えなくなっている。 船舶の不法投棄、落書きなどが見られ、景観を損ねるだけでなく、悪臭、保安、処理費用などの問題が発生している。 海岸利用者等による海岸への放置ゴミや陸域からの流入ゴミ等の散乱が、海岸の生態系や景観、そして海岸利用に悪影響を及ぼしている。 漂着ごみでは、近年、河川等から流出したと考えられる流木が問題となっており、特に大雨・豪雨のあと大量に河川から海へ流入し、海岸保全施設・港湾機能・小型船舶の航行・景観及び親水空間・漁業に及ぼす影響が発生している。 プレジャーボートの不法係留（放置艇問題）が問題になっている。	矢作川水系河川整備計画 第2回住民懇談会（岡崎） 第2回住民懇談会（岡崎） 第2回住民懇談会（豊田） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画		
				景観阻害要因の除去	・ゴミや汚物の不法投棄 ・家電製品の不法投棄 ・船舶の不法係留、車両の不法放置 ・河道内樹木による眺望阻害 ・流木の河川等への流出						

分類	大分類	小分類	課題	問題点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 計画	委員等の意見	根拠
環境	良好な水質の維持	三河湾における水質保全対策	<ul style="list-style-type: none"> 閉鎖性の強い水域 生活排水や産業排水による流入負荷 赤潮の発生 アオサの発生 苔潮の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 閉鎖性の強い水域 生活排水や産業排水による流入負荷 赤潮の発生 アオサの発生 苔潮の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 閉鎖性の強い水域 生活排水や産業排水による流入負荷 赤潮の発生 アオサの発生 苔潮の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 閉鎖性の強い水域 生活排水や産業排水による流入負荷 赤潮の発生 アオサの発生 苔潮の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 干潟の減少、自浄作用低下、漁獲量の減少やアオサの発生といった海域の水質が問題視されている。 毎年赤潮が多発しており、冬期には養殖のりの色落ちを引き起こし、夏期には負酸素水塊の要因となるなど、大きな被害を与えている 矢作川水系では6件の水質事故が発生（うち5件が油類の流出）している。 三河湾の赤潮発生件数は1995年～2004年にかけて平均22.7件/年であり、伊勢湾内では三河湾における赤潮発生件数が非常に多い 経年的な比較は難しいが、苔潮は近年でも5～10回程度確認されており（図2-13）、2006年（平成18年）9月には最大規模の苔潮が発生した。苔潮は、景観の悪化や漁業被害、浅海域に生息する海域生物に致命的な影響を及ぼす場合がある。 矢作古川の水の浄化、水が澄んだ魚の住める川にしてみたい。 支川の水質は悪く、流入する本川の水質にも影響するため、支川の水質も考慮すべき。 鹿乗川、乙川等の支川は、依然として汚濁負荷量が高い 下水道整備による河川への水量の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 第8回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 第2回住民懇談会（西尾） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 市民会議準備会 第2回住民懇談会（豊田） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画
				<ul style="list-style-type: none"> 流入河川、支川の水質浄化対策 	<ul style="list-style-type: none"> 支川（矢作古川、鹿乗川、乙川等）の水質が悪い 河川への水量減少（下水道整備など） 			
		流域対策の推進（排出負荷の削減）	<ul style="list-style-type: none"> 合併浄化槽の整備が不十分（上流） 汚水処理施設の整備率が低い（全国より-13%） 大腸菌群数が環境基準を未達成 下水道処理人口普及率が低い（全国より-10%） 	<ul style="list-style-type: none"> 合併浄化槽の整備が不十分（上流） 汚水処理施設の整備率が低い（全国より-13%） 大腸菌群数が環境基準を未達成 下水道処理人口普及率が低い（全国より-10%） 	<ul style="list-style-type: none"> 合併浄化槽の普及 上流域での合併浄化槽の普及 矢作川流域の汚水処理施設整備率は平均で約84%だが、全国平均（77.7%）と比べると低く、また、流域内市町村の間での格差が大きい。 大腸菌群数は環境基準を満たしておらず、水質改善のための対策が必要。 下水道処理人口普及率は59.0%であり、東京湾や大阪湾の約90%に比べ大幅に低く、全国平均の69.3%も下回っている 三河湾流域圏の市町村のうち、豊橋市、岡崎市及び刈谷市は合流式下水道を採用しているが、近年、雨天時未処理放流水による放流先での水質の悪化、水利用者に対する景観・公衆衛生及び生態系への影響が懸念されている。 河川の水質改善を図る下水道整備や、農業用水等の取水による河川流量の減少や、河川環境に与える影響の検討が必要。なお、環境に対する農業のマイナスインプクトだけでなく、森林や農地等のプラスチックインパクトについての評価も必要。 きれいな水と豊かな水量を確保するため、利水者も含めた関係者の合意形成が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回住民懇談会（豊田） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 		
		ダム湖内対策（冷濁水対策、土砂流出対策）	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の森林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い） 冷濁水放流の長期化 富栄養化の恐れ 	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の森林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い） 冷濁水放流の長期化 富栄養化の恐れ 	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の森林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い） 冷濁水放流の長期化 富栄養化の恐れ 	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の森林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い） 冷濁水放流の長期化 富栄養化の恐れ 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回行政連絡会 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 	

分類	大分類	小分類	課題	回廊点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 課題	委員会の意見	根拠	
地域活性化	地域間交流の推進	大分類	地域間交流の推進	上下流交流の推進			下流の問題に重点が置かれ、上流に対しては意識が低いと感じる。	住民説明会(恵那市申原)	
							矢作川における流域圏内の交流については、今後の課題。	第8回矢作川流域委員会 資料-4	
	まちづくりとの連携	小分類	まちづくりと一体となった河川環境整備	まちづくりと川づくりのつながり不足	上流への意識の低さ ・流域住民の参加を促す取組みが不足			森林管理という視点から、上流の森林保全に下流が支援し取り組む結束が必要であり、行政、地域住民、NPOとの相互協力や、流域住民の参加を促すような組織づくり(勉強会やイベント等の開催)が必要。	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて
					河川の利用にあたっては、河川に対する愛着がわき、きれいな川の維持につながる住民参加を促すことが必要であり、あわせて利用者の交流を深める行政や市民レベルの様々な上下流連携が必要。			調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて	
					流域内の生徒、先生、住民等が上下流の自然を体験し、自然環境の保全に向けた上下流連携出来るような流域圏一体の交流が必要。			調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて	
					住民参加型による親水性の向上化への取り組みが進んでいるが、点的な水辺空間整備であり、地域のまちづくり等と連動した面的な広がりになっていないのが実態である。			三河湾流域圏再生行動計画	
					川づくりにあたっては、きれいな水や豊かな水量の確保と合わせ、個々の行政レベルでのつながりや、流域全体のつながりが必要。このため、川を縦断的、横断的につなぐことを意識的に考えるとともに、より大きな輪になるように広げていくことが必要。			調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて	
					連続性のある遊歩道の整備が不十分			第2回住民懇談会(西尾)	
					・通過交通によりクラック発生 ・狭くて危険 ・渋滞時では、緊急の交通確保が困難			第2回住民懇談会(西尾)	
					堤防上の道路が、車両通行OKだが、道路巾が狭くて危険。			第2回住民懇談会(岡崎)	
堤防天端の兼用道路化に伴い、通過交通により天端にクラックが発生。			第8回矢作川流域委員会 資料-4						
堤防上の兼用道路は約55kmあり、一般交通の渋滞発生時には緊急の交通確保が困難となる等、河川巡視や水防活動の支障になっている			矢作川水系河川整備計画						
流域の自然環境が変化している。浮世絵に描かれるような歴史的景観を残す維持管理がこれからは、必要でないか。			第2回住民懇談会(岡崎)						
豊田市久保町見ノ口公園の西側が昔、矢作川の堤防だったという話を聞いた。「秘堤防」と地方では言っている。今後このような歴史的財産を保存することは計画されているか。			第2回住民懇談会(豊田)						
小島の竜宮大社の祭事に支障とならないように洲の確保が出来るように分派北の放水路を考えて頂きたい。			第2回住民懇談会(西尾)						

分類	大分類	小分類	課題	問題点 (キーワード)	地域部会 山川港	短期 課題	委員等の意見	根拠				
地域 活性化	産業の振興	林業の振興	林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・林業経営不振、林業従事者の減少 ・森林の荒廃 ・流域連携による仕組みづくり ・助成制度や公的支援の見直し 	山		<p>平成12年の災害で山崩れが多かったのは全伐して15年前後の箇所であった。切った木に補助金をつけるのに加え、残した木に補助金をつけるような方法が取れないか。災害の低減につながると考えられる。</p> <p>森林整備にあたっては、荒廃した民有林を保安林に指定し、間伐・除伐に公金を投入する制度（地域防災対策総合治山事業）もあるが、保安林指定されることにより行為に制限がかかることから、民有林に対する助成制度や公的支援の見直しなど、抜本的な対策が必要。</p> <p>上流では過疎となり山の手入れができないう状況。下流では上流の問題を考えると欲しい。矢作川水源基金があるが、県が運ぶことにより、長野県まで回ってこないのが現状。</p> <p>森林整備・管理には多くの費用がかかる。基金等の弾力的な運用（下流域の協力、県境・行政の枠組みを越えた基金の運用、基金の使い道）を図るため、基金の拡大・充実が必要。</p> <p>水源涵養を進める上で、上・中・下流域の住民負担なども考える必要がある。</p> <p>森林管理という視点から、上流の森林保全に下流が支援し取り組み結束が必要であり、行政、地域住民、NPOとの相互協力や、流域住民の参加を促すような組織づくり（勉強会やイベント等）の開催が必要。</p> <p>森林保全につながるが河川整備に取り組みで頂きたい。</p> <p>これまで自分たちで治山等を行ってきたが、現状を分析し、どこを助けたらよいかを明らかにしたい。</p> <p>伐採した木材が流木となって下流へ流下しないよう努力をしているが、林野庁の補助だけでは不足している。</p> <p>国土交通省の工事では流域の木材を利用する等の対応をして欲しい。</p> <p>森林経営の不振に伴い、間伐等の維持管理が、適切になされているとはいえず、山地崩壊、流木発生の原因のひとつと考えられる。</p> <p>森林の荒廃による洪水時の土砂流出、流木の増加等による河川への悪影響が懸念。</p> <p>戦後の針葉樹の植林により、生物等の生息環境が創出されたが、広葉樹に比べて土壌の保持力が弱く、適切な管理を怠ると土壌が流出しやすい。</p> <p>上流域は森林荒廃が激しく、森林保全（治山、治水、育林等）に苦慮している。</p> <p>標高500mより上流では、スギ・ヒノキ人工林及び薄草広葉樹林が分布する山地が広がっているが、人工林は間伐が不十分であり荒廃が進んでいる箇所がある。</p> <p>川の中の鳥にカラスの住かになっている。カラスの大群発生・・・農作物に被害が出ていることも考慮して欲しい。</p>	住民説明会（根羽村） 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 住民説明会（根羽村） 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 第8回矢作川流域委員会 資料-4 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 第2回住民懇談会（岡崎） 住民説明会（根羽村） 住民説明会（根羽村） 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第2回行政連絡会 矢作川水系河川整備計画 第2回住民懇談会（岡崎） 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 第2回住民懇談会（豊田）				
				<ul style="list-style-type: none"> ・中洲におけるカラスの生息（中流） 								
				<ul style="list-style-type: none"> ・アカガイの激減 ・ナマコ類の減少 ・貝類、エビ・カニ類の減少 ・アユのそ上阻害（上流） 								
				<ul style="list-style-type: none"> ・アカガイの激減 ・ナマコ類の減少 ・貝類、エビ・カニ類の減少 ・アユのそ上阻害（上流） 								

分類	大分類	小分類	課題	問題点 (キーワード)	地域部会 山川海	短期 課題	委員会等の意見	根拠
総合土砂管理	土砂・流木被害の軽減	適正な治山対策	適正な森林管理	・流出土砂の発生 ・専門的知識の不足 ・森林の荒廃 ・流木の発生			地表の花崗岩はマサ化し崩壊しやすい特徴を有しており、山腹崩壊等による流出土砂が多い。 伐採した木材が流水となって下流へ流下しないよう努力をしているが、林野庁の補助だけでは不足している。 国が水源地のことを考えるという姿勢はうれしい。これまで自分たちで治山等を行ってきたが、現状を分析し、どこを助けたらよいかを明らかにして欲しい。河川沿いの樹種の研究もあわせて行い、川を守る樹林の姿を明らかにして欲しい。近年、河川等から流出したと考えられる流木が問題となっている 平成19年(2007)年度時点で計画堆砂量に対する堆砂量の割合が約103%となっている。 堆砂量は計画堆砂容量に対して約103%に達しており、堆砂の一部は貯水池上流に堆積し有効貯水容量の一部を侵している。 ダムができて土砂がなくなると樹林化が進んだ。 近年は河床材料の粗粒化、砂州の固定化、樹林化が進んでいる。 ダム湖等への流入土砂の堆積により、下流河川への供給土砂量の減少が、河床低下の原因のひとつと考えられる。 土砂の排出により漁業被害が三河湾で発生した場合、どうするのか。 近年は河口干潟の減少等も進行している。 河川内の雑木を可能な限り、流水がスムーズに流れるようにしてほしい。 高水敷の草刈りをしてほしい。(河川敷10m位) 堤防の草刈の回数を増やして欲しい。 自然環境も大事であるが、川の中の鳥にカラスの住かかっている。 樹林化が進み、河川内への侵入する所が減少し、洪水時の阻害となることにも、洪水時に流出した場合、下流の構造物に被害を及ぼす懸念がある。 密林状態に繁茂した樹木は不法投棄の温床になりえる。 河川の竹林が密生しているため、豊田スタジアムのレストランから低水路の水面が見えなくなっている。	矢作川水系河川整備計画 住民説明会(根羽村) 住民説明会(根羽村) 三河湾流域圏再生行動計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4
		矢作ダム堆砂対策	・堆砂の進行 ・矢作ダムへの流入土砂の増加				河床低下を抑制する帯工等の設置による、矢作ダムへの流入土砂量の抑制。 計画堆砂量に近い堆砂が進んでいると共に、有効貯水容量内への堆砂があり、これが有効貯水容量の減少を招いている	第8回矢作川流域委員会 資料-4 住民説明会(根羽村) 第8回矢作川流域委員会 資料-4
維持管理	河道管理	河道安定化対策	・土砂による樹林化、河床低下等の河道への影響				平成19年(2007)年度時点で計画堆砂量に対する堆砂量の割合が約103%となっている。 堆砂量は計画堆砂容量に対して約103%に達しており、堆砂の一部は貯水池上流に堆積し有効貯水容量の一部を侵している。 ダムができて土砂がなくなると樹林化が進んだ。 近年は河床材料の粗粒化、砂州の固定化、樹林化が進んでいる。 ダム湖等への流入土砂の堆積により、下流河川への供給土砂量の減少が、河床低下の原因のひとつと考えられる。 土砂の排出により漁業被害が三河湾で発生した場合、どうするのか。 近年は河口干潟の減少等も進行している。 河川内の雑木を可能な限り、流水がスムーズに流れるようにしてほしい。 高水敷の草刈りをしてほしい。(河川敷10m位) 堤防の草刈の回数を増やして欲しい。 自然環境も大事であるが、川の中の鳥にカラスの住かかっている。 樹林化が進み、河川内への侵入する所が減少し、洪水時の阻害となることにも、洪水時に流出した場合、下流の構造物に被害を及ぼす懸念がある。 密林状態に繁茂した樹木は不法投棄の温床になりえる。 河川の竹林が密生しているため、豊田スタジアムのレストランから低水路の水面が見えなくなっている。	矢作川水系河川整備計画 矢作川水系河川整備計画 第2回住民懇談会(岡崎) 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 住民説明会(恵那市申原) 矢作川水系河川整備計画 第2回住民懇談会(西尾) 第2回住民懇談会(西尾) 第2回住民懇談会(岡崎) 第2回住民懇談会(岡崎) 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第2回住民懇談会(豊田) 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4
		樹木の適正管理	・樹林化の進行					河川管理施設の劣化 ・法滞時では、緊急の交通確保が困難

分類	大分類	課題	小分類	回重点 (キーワード)	地域部会 山 川 海	短期 課題	委員会等の意見	根拠						
維持 管 理	矢作ダム管理	適正なダム管理	小分類	ダムへの流木の流入 ・河川への流木の流出 ・濁水の長期化			東海豪雨の際、大量の流木が流入(捕捉)した	第8回矢作川流域委員会 資料-4						
							王砂流出・流木・濁水の長期化等を軽減	矢作川水系河川整備計画						
							許可工作物の管理	許可工作物の適正管理	現行の技術基準を満足していない工作物が存在している		第8回矢作川流域委員会 資料-4	第8回矢作川流域委員会 資料-4		
							危機管理対策	情報ネットワークの構築	水質、水難事故等への迅速な対応方法		円滑な情報収集・提供・共有のためにネットワークの高度化と整備の充実を図ることが必要である。	第8回矢作川流域委員会 資料-4	第8回矢作川流域委員会 資料-4	
							不法投棄への対応	不法投棄対策	地球温暖化の影響把握と対策	海面上昇による海抜ゼロメートル地帯への影響			地球温暖化に起因する地球規模の気候変動と海面上昇といった課題が生じている	第8回矢作川流域委員会 資料-4
													衣浦港～矢作川河口付近の一色町周辺と、三河港の豊橋市沿岸域で海抜ゼロメートル地帯が広がっている	矢作川水系河川整備計画
													三河湾流域圏再生行動計画	三河湾流域圏再生行動計画
							流域圏に係る意識向上	流域内の連携強化	流内者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足				ゴミの不法投棄が多く見られます。	第2回住民懇談会(岡崎)
													一部の河川利用者によるゴミ投棄や上流部、支川等から流出してくるゴミに加え、家電製品や自動車等の不法投棄が発生している	矢作川水系河川整備計画
													名鉄電車の下り残骸の撤去。	第2回住民懇談会(岡崎)
							維持 管 理	流域内の連携強化	流内者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足				船舶の不法係留や車両などの不法放置、ゴミや汚物の不法投棄、落書きなどが見られ、景観を損ねるだけでなく、悪臭、保安、処理費用などの問題が発生している。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
													海岸利用者等による海岸への放置ゴミや陸域からの流入ゴミ等の散乱が、海岸の生態系や景観、そして海岸利用に悪影響を及ぼしている	三河湾流域圏再生行動計画
													プレジャーボートの不法係留(放置艇問題)が問題になっている。	三河湾流域圏再生行動計画
							維持 管 理	流域内の連携強化	流内者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足				上流の事を考えてください。根羽村ではいつも水を大切に考えております。	住民説明会(根羽村)
													矢作川の最大の課題は河川管理者がバラバラなことであり、河川管理者の統一を目指すべきである。	第10回流域委員会
流域の自然環境が変化しており、歴史的景観を残す維持管理が必要。	第2回住民懇談会(岡崎)													
維持 管 理	流域内の連携強化	流内者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足				縦割り行政でなく、治水だけでなく治山、森林事業を一体で実施していかなければ問題解決が図られない。	住民説明会(根羽村)							
						矢作川と二級河川の管理の連携を密にして、浸水流域の排水を矢作川は直接する方法をとるとかかして、関係機関(県、市など)、地域住民と一体となって取り組んで頂きたい。	第2回住民懇談会(岡崎)							
						根羽村はすばらしい景観があるが、高齢化により護岸の整備等も難しくなってきた。都会の方の力を借りて、景観を残して欲しい。	住民説明会(根羽村)							
維持 管 理	流域内の連携強化	流内者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足				上流では過疎となり山の手入れができないう状況なので、下流では上流の問題を考えると欲しい。	住民説明会(根羽村)							
						豊川流域圏で実施されているメールマガジンのように、流域全体の情報を発信する仕組みを作ってください。	第2回住民懇談会(豊田)							
						森林の荒廃や管理状況、森林管理の効果等に関するデータが必要。	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて							
維持 管 理	流域内の連携強化	流内者の連携不足 ・縦割り行政 ・上下流交流の不足				こみの不法投棄抑止に向けた情報共有や啓発活動また、関係者の連携が必要。	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて							
						国、県と河川管理者がバラバラであり、河川周辺の国勢調査等において、流域内の自然環境を上流から下流まで支川を含めて一体的に調査することが必要であり、流域住民が自然を身近に感じ、河川環境を守るために川の自然についての情報提供が重要。	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて							